



虹の会

社会福祉法人 サポートネット 虹の会

ニュースレター



No. 92
2024 / 1

サポートネット虹の会は西豪州政府に登録された非営利・非宗教団体です

新年のご挨拶

在パース日本国総領事 内藤 康司

サポートネット「虹の会」の皆様、新年おめでとうございます。

着任直後に岸田総理をパースにお迎えして1年余りが経ちました。おかげ様で昨年は通常は数年に1回の西豪州首相の訪日が2回あり、ANAパース・成田直行便も3年7ヶ月ぶりに再開するなど、人の交流が本格的に拡大した年となりました。

パースの日本人社会を中心とした様々な生活相談やボランティア活動に従事される虹の会の皆様におかれても、チャリティーバザーを再開され、UWAの川崎享子先生による「子供とうちで日本語を話す」ワークショップ、相続セミナー、ラジオ体操とフィジオ体操、プレイグループ活動など、有意義な活動を意欲的に開催して頂きました。さらに、ラポート社と連携して総領事公邸にて開催させて頂いた「パースで快適シニアライフ」セミナーには多数ご参加頂いたほか、過去最大のパース日本祭りでは、ボランティアをご指導頂いた他、キッズ甚平セールは好評でした。この他、パース・ユース・ジャズオーケストラと昭和音楽大学の野外コンサート、領事団主催の世界の食文化の祭典等、パースに根づいた交流行事を支えて頂きました。

パース日本祭りでは「盆踊りをやる以上、パース音頭をつくりたい」と、当地に定住された故・藤音彦さんの30年前の作詞に、林せつ子さんの作曲、マッカーサー千里さんが振付け、三枝さんの歌に、津軽三味線、太鼓で本当にパース音頭をレコード化し、やぐらから見た盆踊りの輪が幾重にも広がったのを見て本当に感動的でした。若手はパースを愛する先輩方を尊敬し、その精神が着実に受け継がれている様子を見た思いがしました。

虹の会の皆様には、互助とボランティアの精神で、日本人が当地で快適に暮らすための悩み事相談、家庭訪問等の活動を行うのみならず、西豪州の方々との友好親善、新旧世代をもつなぐ「虹の架け橋」として活動されていることに対し、心より御礼申し上げます。

新年度を迎えて

虹の会 会長 大槻 慎一

虹の会の第23回総会が、さる10月7日に開かれ、前年度の事業報告と決算、今年度の事業計画と予算が承認され、理事も決まりました。

コロナ禍は、解除されましたが、虹の会の活動が、以前に比べ制約されてきた感じがします。これは、スマホ依存症が原因なのか、コミュニケーションの取り方に個々人の考え方が、異なってきたのか、良く分かりませんが、このような環境の変化が見られるときにこそ、お互いの絆をより一層強めて、心底から支えあっていく本来のボランティアが、なにより大切だと感じます。

これからもより一層皆様のご協力、ご支援を得て、虹の会をここパースで信頼できる”皆さんのボランティア団体”にしていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

